
韓国保険業界の現況と課題
-損害保険の資産運用を中心に-

企銀経済研究所 徐胤碩

1. 損害保険市場の環境

最近、損害保険会社の収益構造は保険営業で発生する損失を投資営業利益で補う様相を呈している。しかし、損害保険会社の経営戦略は保険営業損失を減らして利益実現を目指している。一般的に保険営業利益は外部環境の変化によるリスクをヘッジするのは難しい。一方、投資営業利益は多様な資産に投資する分散効果を通じてリスクを減らすことができる。

損保業界はますます激しい競争の中にあって保険営業の側面で利益を改善するのが難しければ投資営業利益の増加に関心を持つ必要がある。

2. 損害保険社資産運用の現況

損害保険社の運用資産の中で一番高い割合を占めているのは債券や株式のような有価証券(約 65%)である。次に貸し出し債券が 20%を占めている。不動産は 8%程度であるが、徐々にその投資比重を減らしている。

有価証券の構成割合をよく見ると、国債と特殊債のような債券に 65% 以上の資産を投資している。ところで 2000 年以後、金利が下落しながら低金利が持続しているにもかかわらず、むしろ債券の投資が増えている。この結果、損保会社の運用資産の利益成長率は資産規模成長率を上回っていない。

3. 損害保険資産運用の問題点

まず第一に、運用資産規模の成長率に運用利益の成長率が付いて行けない状況である。第二に、運用の目標を安全性の確保に置いているので運用資産の大部分を国債、特殊債のように安定性は高いが収益性が低い資産に投資している。しかし、今後低金利が持続すればこのような運用戦略では投資営業の収益性を改善しにくい。第三に、投資対象が限定されている。特に海外資産の投資は極めて少ない。現在、全体運用資産の 1%にも達していない。

4. 資産運用の今後の課題

(1) 総合的資産管理システムの構築

資産運用戦略を樹立する場合、資金調達と資金支出を同時に考慮する総合的資産運用戦略を樹立しなければならない。

(2) 資産別投資戦略

国内株式の投資：国内株式市場はまだ低評価されていて上昇余力がある。すなわち変動性も低くなり安全性も高くなった。したがって株式投資の割合を高めなければならない。

国内債券の投資：最近、国内企業の財務健全性が高くなったので会社債の投資割合を高めるのが望ましい。特に ABS (Asset Backed Securities) や MBS (Mortgage Backed Securities) のように収益が高い債券をポートフォリオに含ませなければならない。

海外証券の投資：海外株式に投資することで国際分散投資効果を引き出す。しかし回収可能性、為替リスク及び流動性を考慮したらアメリカやヨーロッパなど証券市場の効率性が高く政治的に安定した国に投資するのが望ましい。